

# 近自然工法で豊かな川を取り戻す。

高知県のユニークな土木工事コンサルタント会社は生態系を大切に、できる限り自然の状態に近い土木工事を日本中に広める役割を果たす。



福留脩文 代表取締役

## 株式会社西日本科学技術研究所

- 代表者：福留脩文
- 設立：1974年
- 資本金：1000万円
- 業務内容：建設コンサルタント
- 所在地：高知市若松町9-30
- 連絡先：Tel.088-884-5151  
Fax.088-884-5160  
<http://www.ule.co.jp/>

会社概要

### 川を生き返らせる近自然工法。

新しい土木事業が始まっている。日本の河川は近代化の中でその形を変えてきた。かつては蛇行し、瀬と淵で勢いに緩急のある川はトンボやカゲロウが飛び交い、アユやアマゴが群れ泳ぐ生命力にあふれた自然だった。ご存知のように、河川工事によってコンクリートで固められ、真っ直ぐな流れに変わった川からは虫も魚も消え、人工的な場所になってしまった。

水の害を防ぎながらも、もう一度、自然に近い状態に戻してやろうという土木工法が静かに広がっている。近自然工法である。川底を掘削したとき出る石や地元の間伐材を使う。自然のままでも流されない石の様子をつぶさずに観察して工事に生かすとともに、コンクリートのなかった時代の日本伝統の工法技術を採用する。水際には元々そこに生えていた草木を植える。

「置き石や石組みをし、あとは川の力を借りて瀬と淵と砂州を取り戻してやると、魚が群れるようになります」  
こう話すのは、この手法を真っ先に

採用し、第一人者として手腕をふるう西日本科学技術研究所代表取締役、福留脩文氏である。  
福留氏は住民や自治体の求めに応じ、全国の川をわたり歩いてきた。愛知県の矢作川を皮切りに、高知県の四万十川、近年は、福岡県の岩岳川、熊本県の岩野川、岐阜県の竹原川、北海道の網走川など、数多くの川が生命力を復活させている。

### 地方の自然を壊してはいけない。

福留氏が近自然工法の極意を語る。「自然と、人間が手を入れたところの境界線がわからないことが肝要です」写真の工事例を見てもらいたい。ひとつは愛知県豊田市の児ノ口公園である。一度は埋められてしまった小川を掘り返して周囲に森を作った。15年が経ち、どこを工事したのかわからない。近自然工法は登山道や工場敷地の造成でも活用される。左ページ下の写真は屋久島の登山道の工事例だ。世界遺産登録以後、多くの観光客が訪れ、登山道が崩れた。

豊田市の事業による豊田市児ノ口公園



改修15年後

改修後

改修前

## 環境保全をベースとした地域づくり

屋久島近自然公園登山道



施行12年後

施行後

施行前

雨水が流れて浸食されるからです。人の道と水の道を分けてやればコンクリートは必要ありません。現地にある石で十分なので工事費も安く済みます」  
「工事費が安価。これも近自然工法の魅力だ。現地の材料を使うので他所から材料を購入する費用、運搬する費用が不要で、人件費のみで通常工事の10分の1で済んだ例もある。」  
福留氏が近自然工法と出会ったのは1986年のスイスだった。  
「人の手が入っているのに森と人里の境界がはっきりしませんでした。芝生で自然と人の暮らす場所を区切るのではなく、その境界には雑草や雑木を配していただきましたので風景が実にやわらかいのです」  
以来、理想とする日本の原風景を追い求め、気付いたことがある。  
「なんだ、自分たちが求めていたのは、子どもの時代に時間を忘れて遊んだ山川の風景じゃないかと思いましたが、地方は自然を壊してはいけないんです。豊かな自然があるから都会の人も遊びに来ます」  
近自然工法は地方再生の起爆剤になるかもしれないと感じる話である。